

Graain

Interview



Graain Interview

事務局様

下記は、「公益財団法人 前田記念工学振興財団」山北 岳史様（事務局長）にインタビュー
させていただいた内容を一部抜粋してお届けします。
全文は、<https://www.graain.net/>よりご覧いただけます。



— Graain導入時の印象をお聞かせいただけますでしょうか？ —

山北様：Graainは「シンプルな機能」「定額サブスクリプション」「カスタマイズ不要」という、他の助成業務システムとは異なるサービスでした。更に「セキュリティ対策も確実に実行中」という事から導入の検討を開始。当財団は東京、Graainの運営会社は大阪、コロナ禍という事もあり全てリモートでのやり取りでしたが、WEB会議と電話によるサポートでスムーズにコミュニケーションが取れ、導入が決まりました。

1ヶ月後には契約とシステムの設定が完了し、募集を開始する事ができました。必要なものを最短のスピードでご提供いただき、「最短7日で導入」は嘘ではない、と思いました。

— Graainの導入でどのような変化はありましたか？ —

山北様：昨年までの紙ベースでの申請では、「受領後のメール返信」「選考委員会向けの資料の作成・チェック」に多くの時間が掛かっていました。Graain導入後、受領・問合せの自動メール通知機能やWEBへの入力内容と提出されたデジタルファイルからの複製で済みますので、80%以上の業務負担の削減を実現しています。

— 今後、Graainに期待することをお聞かせください。 —

山北様：現在でも、シンプルかつ必要な項目が網羅されているメニューですが、申請者や評価者（選考委員）目線で、ストレスを感じさせない更なる改善や機能実装をお願いします。また、Graainの市場への浸透と共に、様々な助成団体のノウハウが更に備わってくると思います。Graainを通じてそのノウハウが当財団の事業運営にフィードバックされていくことを望みます。助成団体の多くは小規模かつ予算が限られていると思われるので、より安価で使い勝手のよいGraainのようなサービスを待ち望んでいる方も多いのでは。

是非、Graainをしっかりと育てていただき、多くの助成団体が社会貢献活動を実施する上での強力なパートナーとなっただけのことを期待しています。

Graain Interview

事務局様

下記は、「公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団」事務局の日下部 治夫様にインタビューさせていただいた内容を一部抜粋してお届けします。
全文は、<https://www.graain.net/>よりご覧いただけます。



— Graain導入までの経緯をお聞かせいただけますでしょうか？ —

日下部様：当財団では研究助成に関する申請、選考、受領者からの報告等、すべて紙ベースで行っていました。申請数も200件を超え、申請概要の転記、複写、郵送などの業務で多くの時間とかなりの業務負担が発生していました。こうした中で、申請・選考業務が簡便で、受領者へのアフターフォローがし易く、かつ研究助成業務を効率化するためにシステム化を検討していました。

— Graain導入を決定した理由をお聞かせください。 —

日下部様：自前でのシステム構築を含め幾つかの研究助成業務支援システムを検討する中で、汎用版のクラウドサービス「Graain」に出会いました。

また、コスト・納期・セキュリティの観点から、他の研究助成業務支援システムと比較する中で、Graainは「月額料金のみ（初期費用不要）」「アカウント作成ですぐに利用開始できる」「安心のセキュリティ」に加えて「充実した機能」という、他のシステムとは異なるクラウドサービスでした。

— Graainの導入でどのような変化はありましたか？ —

日下部様：昨年までの紙ベースでの申請では、「受領後のメール返信」「申請者リストの作成」、「選考委員向けの大量の申請書類の複写、発送」、「選考委員会向けの資料作成」などに多くの時間と労力を取られるとともに、作業ミスリスクも孕んでいました。

Graain導入後、受領後のメール返信は「システムが自動送信」、申請者リストは「CSV出力で確認」、申請書類の複写、発送は「Graain上のPDFで確認」、選考委員会向けの資料作成は「Graain上で選考情報の確認、CSVによるデータ化」により不要になりました。そのため以前と比べて大幅に業務負担の削減を実現。また、昨年と比べて申請数は1.35倍に増加しています。

Graain Interview

事務局様

その他、Graainにお寄せいただいたコメントをご紹介します。

公益財団法人 萩原学術振興財団様

Graain含め3社コンペを実施。選定理由は、主にコスト面。

他の2社は従来の受託開発型となっており、Graainがコスト含め当財団に一番マッチしていた。また、他社のある機能はほぼGraainにも実装されており、不足している機能も追加コストなくバージョンアップで対応されるということで決定に至った。画面操作もシンプルで使いやすいように設計されており、懸念していた選考委員からも「Graainであれば問題なし」とのコメントをもらっている。

公益財団法人 日本フィランソロピック財団様

当財団の基金が少しずつ増え、助成業務の実務についても数件ほど行ってまいりました。

その中でより良い方法がないかと具体的に業務効率化のためのシステム導入を検討するなかで、Graainに出会いました。他社サービスも検討しましたが、コスト・機能面でGraainを選定し導入決定致しました。

Graain Interview

選考委員様

下記は、「公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団」選考委員長の木下 タロウ様（大阪大学 微生物病研究所 生体防御研究部門 糖鎖免疫グループ 特任教授）にインタビューさせていただいた内容をお届けします。

— Graainでの初めての選考はいかがだったのでしょうか？ —

選考委員長：（Graain）導入以前は、膨大な紙資料の確認・整理にかなりの時間を要していましたが、導入後は場所を問わず資料の閲覧と評価入力ができるので、手間と時間の短縮が同時に行えたのは良かったですね。

— 今回、何名の選考委員様がGraainで審査いただいたのでしょうか？ —

選考委員長：選考委員15名の内、13名がGraainで審査を行いました。当初はもっと少ないのでは？と感じていましたが、8割以上の選考委員からスムーズにデジタル化に移行できたと聞いています。残りの2名の方は独自の手法を確立されているということで、これまで通りとしました。

— Graainを導入して一番良かったと思われる点はどのような点でしょうか？ —

選考委員長：比較対象が「紙」で運用していた時となってしまいますが、それでもGraainには高い評価をしています。冒頭で述べた内容と同様ですが、ペーパーレス化を行えたのは勿論ですが、デジタル化で作業効率が圧倒的に良くなったと感じています。また、将来的な選考委員の世代交代を考えると、デジタル化への移行タイミングとしては最適だったと考えています。

— 今後、Graainに期待することをお聞かせください。 —

選考委員長：審査では何十、何百という申請に目を通すので、簡易的に残せるメモ機能があると便利ですね。あとは今回の様に、選考委員や申請者にも積極的にヒアリングやアンケートを行うことで、サービスの品質向上に繋がっていく取り組みをされているということで、今後のGraainの展開にも期待したいと思います。